

IAUD Newsletter vol.5 第12号 (2012年11月号) 目次

「第4回国際UD会議 2012 in 福岡」開催報告第2弾

1. 「48時間デザインマラソン in 福岡」開催報告・・・・・・・・・・ 1
2. 展示会 (屋内展示/屋外展示) 開催報告・・・・・・・・・・ 6

福岡観光の魅力を高める UD を提案 ～「48時間デザインマラソン in 福岡」開催報告

ユーザー参加型ワークショップ「48時間デザインマラソン in 福岡」(主催: IAUD)が九州大学と特定非営利活動法人まる様のご協力のもと、10月10日(水)から10月13日(土)の4日間、九州大学大橋キャンパスの芸術工学部多次元デザイン実験棟(福岡市南区)で開催されました。

今号の Newsletter は4日間の様子について、デザインマラソンを運営したワークショップ委員会に報告していただきます。

テーマは「世界の玄関、福岡と観光」



ワークショップ「48時間デザインマラソン」は、UDの普及啓発と次世代のUDを担うリーダーやデザイナーの人材育成、さらには新たなデザイン開発手法を探求する学びの場とする等、様々な目的や性格を持っている。ユーザー参加型の特別ワークショップは2004年からIAUDが継続的に取り組んできたが、第1回48時間デザインマラソンは2006年10月の「第2回国際UD会議 2006 in 京都」で開催され、今回が第7回目となる。

今回のテーマは「世界の玄関、福岡と観光」。広く世界に開かれた福岡の観光の魅力を高めるUDを提案するというものであった。

ユーザー、企業デザイナー、学生ボランティアなどで構成された6チーム46名が、48時間という短くも濃密な時間を共有して最終デザイン提案の作成作業に集中した。

1日目 10月10日 (水)

会場集合 9:30~10:30

ユーザーとチームリーダーが会場の九州大学多
次元デザイン実験棟に集合。ワークショップ全
体の流れやチーム運営に関わる注意事項、ユー
ザーとリーダーの果たすべき役割と期待など
について、監修をお願いした金沢美術工芸大学の
荒井利春教授からお話しいただいた。

A~Fの各チームでは、メンバーの自己紹介が始
まり、中には早くもにこやかな笑い声が起
こるチームもあった。



開会式 11:00~12:00



参加者全員による開会式が中央実験ホールで
開催された。

冒頭では、参加者がこのワークショップで具
体的に何をするのか明確にイメージできるよう、
2011年9月に金沢市で実施された「48時間デ
ザインマラソン in かなざわ」の様子を映写した。
この映像は北陸朝日放送がワークショップを
密着取材したものをテレビ放映したもので、非
常にわかりやすくまとめている。

さらに、監修の荒井教授（右写真）から、ユーザー参加型ワ
ークショップの狙いと特色、メンバーそれぞれが果たすべき
役割と期待すること、さらには成功の「肝」などについて説
明があった。

さらに今回のテーマである「世界の玄関、福岡と観光」に関
して、テーマ設定の狙いと期待についてお話があった。

その後、各チームは昼食後にスタートするフィールド調査に
向け、調査の場所や方法、移動手段などについて入念な検討
を行っていた。

会場となったホールは8角形をしており、チーム作業の拠点となるテーブルが6つの島
になって設置されていた。今回は新たな試みとして、全チームがこのホールに一緒に入
り、チーム間の仕切りを設置せずに空間を共有する方式をとった。



13:00~18:00 フィールド調査

ワークショップがスタート。中心街の天神から少し南に位置している九州大学大橋キャンパスから、各チームは思い思いの地域へと向かった。

福岡の街は歴史的に「武士（黒田武士）の街：福岡」と、「商人と町人の街：博多」に大きく分かれている。さらに、中洲・天神の代表的な観光地や、新たな地域開発や文京地区なども加わり、それぞれが異なった顔を持つ観光地域を抱えている。

百道（ももち）海岸まで足を伸ばしたチームや、博多港から水上バスに乗船して中州まで那珂川を登ってきたチーム、2階建てのオープントップバスで繁華街を見学したチームなど、各チームは福岡の様々な観光シーンをユーザーとともに体験し、多くの「気づき」を発見した。現地現物で様々な問題点や課題を確認し体験を共有した後、会場の多次元デザイン実験棟に戻ってきた。



19:00~22:00 チーム作業



夕食を済ませた後、各チームはフィールド調査で明らかになった気づきと課題、解決策などについて検討を開始した。ボードにはコメントが記された付箋が数多く貼られ、各チームの議論は夜遅くまで続いた。

今回の新しい試みとして、全チームがひとつの空間で作業をする形態をとったが、他チームを邪魔するほど声や音が会場に響くこともなく、また水を打ったように静寂でもない。お互いのチームの息使いと状況を感じ取れる適度な距離感が生まれていた。

2日目 10月11日（木）

8:30~9:30 交流会

このワークショップにとって最も重要な2日目の朝一番、情報交流会を実施した。昨日のフィールド調査の状況と気づき、今後のデザインの方向性などに関して、各チームの学生ボランティアが報告を行った。他チームの状況を確認しつつ、自分たちの進むべき道を考えるヒントを探り合える機会である。この交流会が済めば、脇目を振る余裕はない。



9:30~23:00 チーム作業



本格的なデザインワークが始まった。メンバー各人の様々な気づきの中からデザインのテーマを絞り込み、具体的なデザインに収斂させる作業で、多層的な経験と知識が混ざり合い、融合して新たなデザインが検討されていった。

作業が順調にしているチーム、暗礁に乗り上げて方向性を決めきれないチーム。荒井教授は6つのチームを回って議論に耳を傾け、それぞれの節目でアドバイスを与えていた。

各チームはギリギリまで会場で作業を行い、宿舎のホテルに戻っていった。宿舎での作業が続く中、荒井教授とワークショップ委員会メンバーもサポート体制をとった。

3日目 10月12日 (金)

8:00~12:00 プレゼンテーション準備

睡眠不足の中、午後からのプレゼンテーションに向けて、各チームはPPT資料やモックの作成に集中して取り組んだ。ナレーションやパフォーマンスの練習をしているチームもあった。

各チームとも締切り時間を守って、プレゼンデータを事務局に提出した。



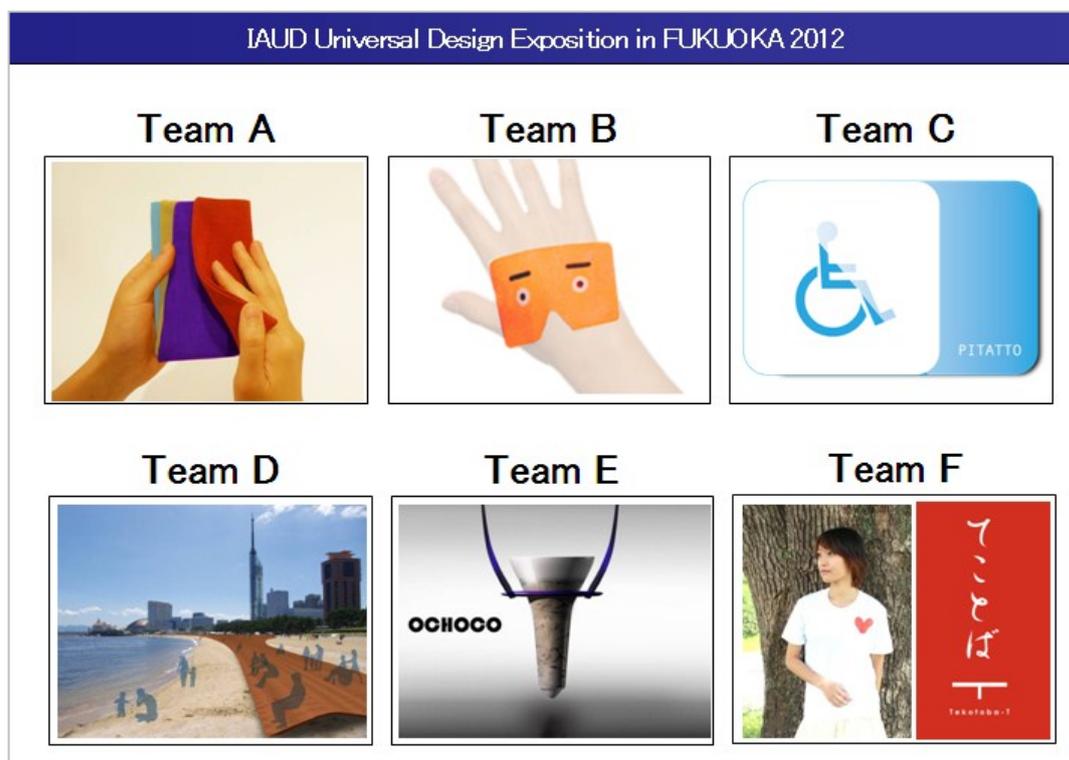
16:20~18:00 チーム発表、公開審査及び表彰式



「第4回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2012 in 福岡」初日の公開シンポジウム内で行われる「48時間デザインマラソン プレゼンテーション及び表彰式」のため、各チームは九州大学を大型バスで出発し、会場となる福岡国際センターへ移動した。会場には、一般の方々や報道関係者など約300名が来場していた。Aチームから順にメンバー全員が壇上に上がり、提案デザインのプレゼンテーションをそれぞれ8分間行った。

あるチームはファッションショー仕立てで、メンバーが軽やかな音楽に乗ってモデルのようにステージを颯爽と歩き回るもので、会場からは大きな拍手が巻き起こっていた。

各チームは大きくて広いステージに戸惑いながらも、48時間の思いをわずか8分間に凝縮し、プレゼンテーションは無事に終了した。提案されたデザインは、どれも素晴らしくリアリティ溢れ、甲乙つけ難いものであった。



A チーム：「Bookerchief」

本のようにめくってキレイな面をいつでも使えるようにしたハンカチ。視覚障害の方でもハンカチを清潔にオシャレに使える。柄には博多のうまいものや博多織の模様バージョンもある。

B チーム：「niwaka」

ICチップを内蔵した 1day 観光パス。裏のシールを剥がして様々なところに貼って使用する。「博多にわか」にちなんだ形で、大きさはカードサイズ。

C チーム：「PITAT」

車椅子ユーザーのバス利用に着目した IC カード。ユーザーの乗車・下車の情報が事前にバスに伝えられ、ユーザー・乗客・運転手がお互いに気を使いすぎないようにできるアイデア。

D チーム：「MOMOCHI WALK」

百道海岸のウッドウォークでの感動に触発され、ウッドウォークをもっと楽しく、多くの人にと考えたアイデア。福岡の「八女杉」を使って新しいウッドウォークを作る。車椅子を安心して止められる、多くの人が自然に腰を下ろせるといった 2 種類のスロープを作る。

E チーム：「OCHOCO」

IC チップ内臓の羽釜型のオチョコ。首から下げて使う。利き酒に関連した情報の銘柄や味、好み、場所や年月日などが蓄積される。

F チーム：「てことば T」

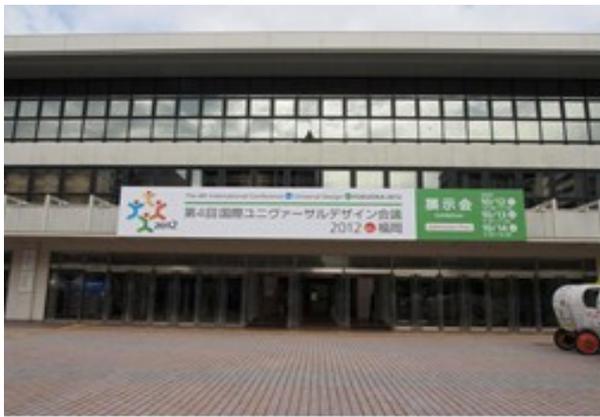
手話で使う手の形をデザインしたワンポイント T シャツ。右手を胸の前に置く“めんたいこ”、博多帯をなでる手の形をピクト化して模様にした“はかた”、両手を交互に上下する“たのしい”が、デザインされて T シャツの模様になっている。

6 チームのプレゼンテーションの後、来場者による投票があり、「ベストデザイン賞」には A チームが、「ベストプレゼンテーション賞」には F チームが決定し、小島文代 IAUD 理事長よりトロフィーが渡された。

また最後に、今回のワークショップの共催者であり運営にご協力いただいた福岡市の高島宗一郎市長（右写真）から、提案されたデザインへの感想と各チームへねぎらいの言葉が送られた。また、ユニバーサル都市を目指している福岡市の思いなどについても語られた。（了）



一般公開の展示会に 3 日間で約 8,800 名が来場 ～「第 4 回国際 UD 会議 2012 in 福岡」展示会開催報告



10月12日（金）から10月14日（日）、福岡国際センター展示ホール（上左写真）及び中央埠頭イベントバス（上右写真）において、一般公開で開催された「第4回国際 UD 会議 2012 in 福岡」併設展示会（屋内展示／屋外展示）には、3日間で約8,800名にご来場いただき、多くの人に UD を知っていただく機会となりました。

今号では写真を中心に、展示会の様子をお伝えします。

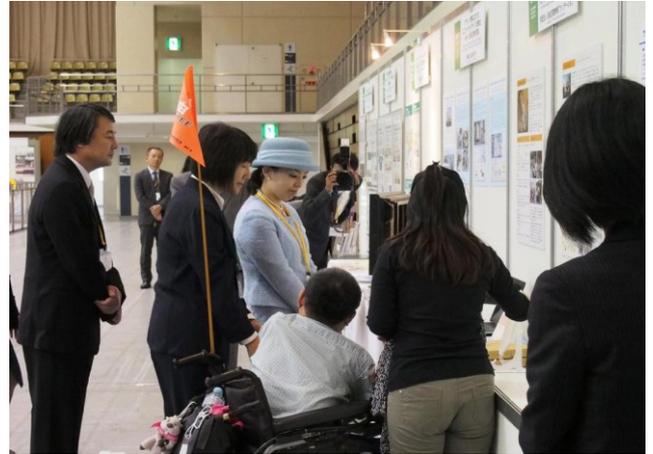
※HPの速報もあわせてご覧ください↓

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1210/20-000500.php>

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1210/20-000600.php>

内覧会

一般公開に先だって行われた内覧会では、瑤子女王殿下も屋内展示及び屋外展示をご観覧になられました。



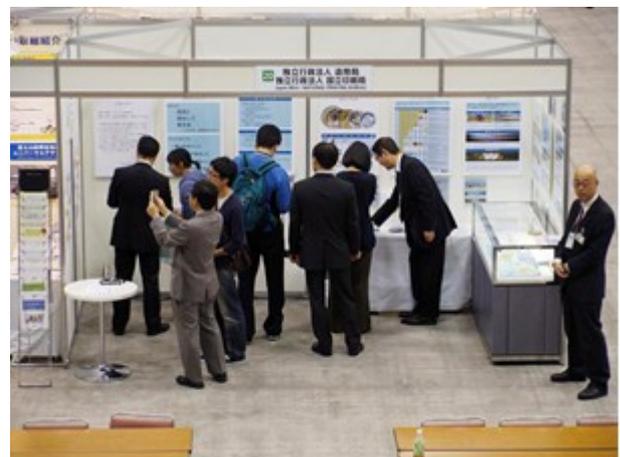
屋内展示 福岡国際センター展示ホール



福岡国際センター展示ホールで開催された屋内展示は、国内外の約50の企業や団体によるUD事例や製品、研究成果などが展示されました。また、特別企画展「命を救うデザイン」や研究部会の成果を展示したIAUDコーナー、IAUDアワード2012を受賞した取り組みも展示されました。

1階展示

日本・世界のUDをリードする35の企業や団体、地方自治体や大学などの最先端のUD事例や製品、研究成果などが展示されました。来場した方々には、様々なUD製品を実際に手にとって試していただき、使いやすさを実感していただきました。



特別企画展「命を救うデザイン」



防衛省、OLIVE PROJECT、山本化学工業(株)、(独)産業技術総合研究所、トヨタ自動車(株)、国際連合人間居住計画、安達紙器工業(株)にご協力をいただき、医療介護系ロボットやアザラシ型ロボット、安全ハイブリッドウェア、レスキューボード、さらには災害支援写真のパネルなど、救助/介助/援助のためのデザインや災害対応の機材などが展示されました。

IAUD コーナー

研究部会の活動の成果をパネルで紹介しました。また、13日には「ユニヴァーサルトーク」として、研究部会メンバーによる活動内容の発表が行われたほか、高齢者疑似体験ツールを使って、来場者による避難グッズのUD評価を実施しました。
※研究部会の発表内容は次号の Newsletter に掲載します。



2階展示

地元福岡市や福岡県内の14の企業や市民団体、教育機関などのUDに対する取り組みが紹介されました。また、「ユニバーサルカフェ」という喫茶・休憩コーナーも設置されました。



IAUD アワード 2012

「IAUD アワード 2012」を受賞した 11 の取り組みを紹介したパネルが展示されました。



屋外展示 中央埠頭イベントバス



屋外展示でも、特別企画展「命を救うデザイン」が開催され、防衛省、海上保安庁、福岡県警、福岡市消防局から特別にご協力いただき、災害時に活躍する様々な車両や船舶機材等が展示されました。

また、10月13日（土）と14日（日）には、海上自衛隊護衛艦「さわゆき」の船内見学や陸上自衛隊による炊き出し実演と復興支援カレーのご試食、また福岡市消防局のはしご車の試乗体験や消防ヘリコプターと消防艇の実演などが行なわれました。

特に、実際に東日本大震災時に救難救助作業に携わった護衛艦「さわゆき」の船内見学には、小さいお子さんを含む家族連れを中心に、予想を上回る人数のご参加をいただきました。



13日朝に護衛艦「さわゆき」が中央埠頭に入港した後、船内において歓迎セレモニーが開催され、護衛艦艦長や伊久哲夫組織委員会副会長、栗原克己組織委員ら関係者による花束と記念品の贈呈が行われました。

海上自衛隊護衛艦「さわゆき」の船内見学



陸上自衛隊による炊き出しの実演及び復興支援カレーの試食



災害対応車両や機材の展示

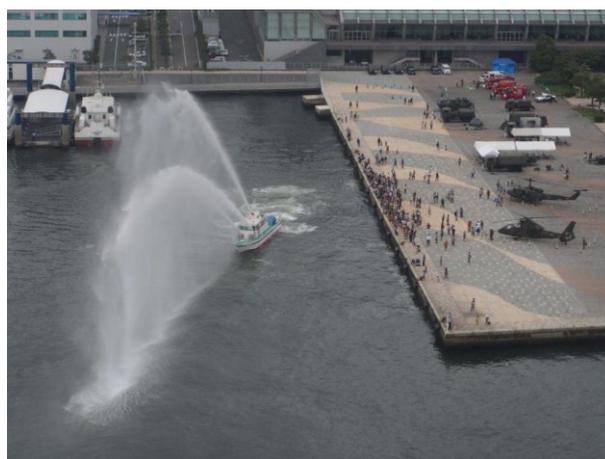




福岡市消防局はしご車の試乗



福岡市消防局ヘリコプターの展示飛行及び消防艇「飛龍」の放水実演



次号は 11 月下旬発行

特集：国際 UD 会議開催報告③「第 1 回 UD 検定」他（予定）

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net